

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470600228
法人名	医療法人 井上内科病院
事業所名	グループホーム 萩の家
所在地 (電話番号)	津市久居井戸山町751番地の1 (電話) 059-259-2888
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 1 月 23 日 (金)

【情報提供票より】 (H20年12月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12 月 24 日現在)

利用者人数	6 名	男性 0 名	女性 6 名
要介護1	名	要介護2	名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 88.16 歳	最低 80 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松阪中央総合病院 勝田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所から8年を迎えた当事業所では利用者と職員の馴染みの関係がさらに深まり、地域の人々に見守られながら穏やかな日常が営まれている。アイドル犬花ちゃんはみんなの心を和ませ、やさしさを引き出してくれる大切な存在になっている。医療や高齢者介護の施設を運営する法人の理事長は、事業所の特性を十分理解し、運営やケアの両面にわたり協力を惜しまず、利用者や職員からの信頼も大きい。また、管理者や職員は常に課題意識を持ち、改善に向けて熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回課題となった事柄に関しては、職員会議や運営推進会議・家族会などに図り、運営推進会議の定期的な開催、柔軟な入浴の体制づくり、地域との関わりの全てに前向きに取り組む、改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各項目ごとに職員に割り当て、書き込んでもらったものを会議に図り、管理者がまとめている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域との関わりや入浴の方法等、運営推進会議で話し合わせ、地域の老人会や文化祭への参加・中学校との交流などが実現している。また、会議での意見を参考にして、入浴方法の見直しを行っている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>気軽に意見を出していただけるような雰囲気作りに努めている。また家族会や運営推進会議でも積極的に意見を出していただき、入浴体制を見直す等、ケアに反映させている。管理者は出していただきにくい意見や不満をさらに引き出す努力が必要だと考えている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>畑の収穫物を届けてもらったり、住民が気軽にお茶を飲んでいかれるなど、日常的なおつき合いが出来ている。自治会長の訪問や老人会や文化祭への参加、中学校の実習の受け入れ等実現しており、地域との関わりは深まっている。</p>
重点項目④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の核になる「思いやり」は、狭い範囲のものを意味するのではなく、広く地域の人たちとの関わりの中から生まれる思いやりやさしさでもありたいと考え、これまでの理念に「地域の中で」という言葉を追加している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の見直しに関しては会議で話し合っている。利用者に清書してもらった理念は玄関に掲げられ、訪れる人たちとの話題にも上り、職員が理念を意識する機会が多い。また、外出や地域の人たちとのふれあいの機会を多く持つなどして日々のケアにも反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	畑の収穫物を届けてもらったり、病院に受診した人たちがお茶を飲み立ち寄りされたりするなど日常のお付き合いができています。自治会には諸事情から加入ができない状態であるが、自治会長等の訪問や老人会・文化祭等への参加もあり、関係はさらに深まっている。いきいきサロンへの利用者の参加も検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価共に職員全員で取り組み、改善に向けての具体的な話し合いを重ね、実践している。管理者・職員は、評価について皆で話し合うこと自体に大きな意義があると捉えている。また、家族会や運営推進会議でも取り上げ意見を出してもらっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。メンバーは利用者・家族・市の担当者・民生委員・職員で、地域とのつながりや、外部評価結果についての話し合い等が行われている。市の担当者からは他の事業所の取り組み等のアドバイスもあり、中学校との交流も実現している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会との関係や利用者の住所の変更等、ちょっとしたことで市の担当者に相談をもちかけ、的確なアドバイスをしてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事のおしらせ等随時便りにして送付している他、運営推進会議や家族会で職員の異動の報告等も行っている。利用者の日頃の様子は面会時直接伝える事が多いが、急を要することは電話でも伝えている。金銭の預かりはしておらず、必要な物があれば立替払いで購入し、毎月台帳の確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開所当初からの利用者や職員が多いことから、家族とも意見交換がし易くなっている。家族会や運営推進会議でも積極的に意見や希望等が出され、日頃のケアや職員の意識の向上につなげているが、表出され難い家族の思いを引き出していく工夫がさらに必要だと管理者は考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は事業所の特性をよく理解し、法人内での安易な職員交替はほとんどなく、開所当初からの職員も多い。昨年は関連施設から1名の異動があったが、日頃から事業所との関わりもあったため、利用者職員共にスムーズに馴染むことができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会や県の研修等に職員が交替で参加している。参加は勤務に位置付けられ、会議で報告し情報の共有を図っている。新人の職員には理念の徹底と事業所が作成した介護マニュアルに添ったケアや対応の指導を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し研修や相互訪問などの機会に交流を図っている。親しい事業所間で意見を交換し合ったりする機会もあり、事業所が抱えている問題解決の糸口にもなっている。管理者は旧市内の事業所間のネットワーク作りを市にも働きかけ、前向きに検討されているものの、実現には至っていない。	○	同じ地域に暮らす事業所間でのネットワークは、事業所のさらなる成長のために欠かせないものであり、実現に向けての努力を続けて来られている。たとえ小さな規模でも、まず一歩、踏み出されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り納得をして利用を始めていただくために、本人にも見学してもらい、利用者と一緒にお茶を飲んでもらったりして雰囲気を感じてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開所当時からの利用者も多いことから、職員にとって利用者は家族のような存在になっている。利用者からは多くの場面で教わるだけでなく、健康を気遣ってもらったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情やしぐさなどからも思いを汲み取るように努めている。また言葉等に出なくても家族とのつながりを求めていることを理解し、関係を断ち切らないような協力を家族に依頼している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況等を細かに把握し、家族の希望や意向も聞き取った上で作成している。リスク管理に留まらず、利用者が出来ることは可能な限りしてもらえよう支援を計画に反映させるよう、職員間で話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎月担当利用者の様子を文書でまとめ、2～3ヶ月に一度会議に回り、改善計画シートのモニタリングを行っている。シートは6ヶ月毎に作成し直しており、計画の作成→状況把握→計画の見直しが一連の流れとして定着し、職員全員が関わって進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の支援や買い物、美容院への付き添い等希望に応じて行っている他、毎年日帰りで家族も参加する温泉旅行も実施しており、家族も楽しみにしている。また今年度は「毎月一回は外に出よう」を目標に掲げ、利用者の希望で地域の名所・旧跡めぐり等も実現している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療法人の理事長が利用者全員のかかりつけ医となっており、週に一回往診がある。病院は事業所のすぐ前にあり、夜間の緊急時にも連絡がとれるだけでなく入院にも対応できるため、利用者や家族・職員の大きな安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規定に重度化・終末期ケア対応指針を記し、事業所の方針を明確にしている。家族からは対応に関する意向を書面で確認しているが、状態や状況の変化に合わせて話し合いを持ち、その都度意向の確認を行うことにしている。職員も気持ちをひとつにし、今年度は一人の利用者を看取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の利用者に聞かれり見られたりしたくないようなことは居室で対応し、プライバシーやプライドを傷つけない配慮を心がけている。調査当日も職員がトイレへの誘いかけを耳元で行い、さりげなく誘導している場面が見られた。面会簿も個別に記入してもらうなど、記録物の管理も行き届いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体的機能や認知度等一人ひとりの状態やペースにあった対応を心がけている。レクリエーション等への参加も誘いかけはするが無理強いすることはない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談しながらその日のメニューを決めている。調理師資格を持つ職員がおり、メニューの品数は多い。利用者が調理をすることは困難な状態になってきているが、片付け等出来る事は一緒にしてもらっている。職員も同じテーブルにつき、季節の食材が話題になったりして和やかな食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のない日は清拭で対応していたが、より柔軟な入浴の対応について職員会議・運営推進会議・家族会等で話し合い、清拭の日にも浴室を開放し、出来る利用者には自由にシャワーや足浴をしてもらえるようにした。職員は清拭に対応しながらシャワーや足浴する利用者にも対応し、安心して楽しんでいただけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや洗濯物の始末、草取りなど、利用者の出来ることや好きなことをお願いしている。体力や気力の低下を防ぐために「月に一度は外に出よう」をモットーにし、希望を募って図書館や地域の名所・花見等行楽に出かけたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然環境に恵まれており、機会があれば周辺の散歩に出かけている。利用者全員が自力歩行が可能であり、かなりの距離を歩くこともある。目的地まで歩き、帰りは車を利用することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけておらず、パネルにタッチすれば自由に出られるようになっている。利用者が出て行かれた際に地域の住民の協力により無事に戻ることが出来ており、事業所は地域との連携の大切さを改めて感じている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回事業所単独で避難訓練を実施し、その内一回は夜間を想定した訓練を行っている。年末に他県で起きたグループホームの火災の後には全員で話し合いの機会を持ち、改めて防災の意識を強くしている。3日間程度のパンや水の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に2回法人の栄養士に献立のチェックと指導を受けている。夜間は利用者の希望や状態に合わせてペットボトルを居室に用意したり、職員が飲み物を用意したりしている。夏季や体調不良時にはポカリスエットをこまめに飲んでもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と居間がつながり、南・東・北側の3面は大きなガラス戸となっているため室内は明るく、暖かい日差しが入り込んでいる。また、ガラス戸を通して外の景色がパノラマのように広がり、四季の移り変わりを楽しむことができる。玄関には季節の花が飾られ、ほのかな香りを漂わせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室南側に面し日当たりが良い。ベッドと床頭台は事業所が用意し、他の物は自由に持ち込んでもらっている。長年使っていた整理ダンスや座卓などを置いたり、エアコンの苦手な方がコタツを置いたりして、それぞれの生活スタイルにあった工夫がされている。		